

おわりに

かわづくりとは、地域を洪水災害から守り、人と地域社会と川の望ましい関係を創り、自然豊かな河川環境を保全し、創成するものです。

三次市三川合流部は、時に甚大な洪水氾濫を発生させながらも、良好な漁場、舟運利用、良好な景観や観光資源を提供し、地域の経済・文化の発展に大きな貢献を果たしてきました。この三川合流部周辺の整備に関して、平成9年に「三次市三川合流部周辺河川環境整備構想」が策定され、整備が進められてきました。また、国においては、平成19年11月に江の川水系河川整備方針が策定され、現在、より短期間の具体的なかわづくり計画である河川整備計画が検討されています。なお、この河川整備計画では住民の意見を反映することとなっています。一方、少子高齢化や厳しい経済状況の進行が地域社会に大きな圧力を与え続けています。

そのような背景の中で今回策定した「三次市三川合流部周辺河川環境整備計画」は、市民の普段の生活に密着した、江の川、馬洗川、西城川、北溝川を対象とし、住みやすいまちづくりにも大いに関連するものです。今回の計画は、今後のまちづくりの方向性と合致することは勿論のこと、継続的に計画が実行される仕組み、特に、市民が核となり行政が支援するという枠組みを早期に立ち上げることを明示した点に大きな特徴があります。すなわち、市民の意見や要望をアンケート調査や水辺環境づくりワークショップを通して集約し、計画に反映させていただきました。同時に、三次市の上位計画との整合性をとることや治水対策の進展の障害とならないことなども検討させていただきました。また、今回の計画では、仮称ではありますが、かわまちづくりセンターという組織（建物ではなく）をスタートさせ、かわづくりに関する情報の集約・発信、計画の改善・見直しなどを行う組織へと成長させる方針を謳いました。この組織は、市民が中心となって、行政や企業、NPO、自治組織などと協働して、かわづくりやまちづくりに関する活動を行うものです。望ましいかわづくりに向けて市民を引張っていく人材の育成、ネットワーク化が不可欠です。当初には行政の支援が必要かと思われそうですが、そのような組織が今後の地域の発展を支える核となるように考えています。この点に関しては地域の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

最後に、今回の計画では前面に出ていませんが、議論になった点を記しておきます。これまでの多くのかわづくりでは治水や利水のために河川の生態環境に大きな負担をかける結果となってきました。川らしい川として今後も持続的に利用するためには生態環境の保全・復元が極めて重要です。川から何かを得るのではなく、どうしたら豊かな河川に戻せるのか、河川に負担の少ない生活になるのか、河川の環境保全のために何ができるのかを考えることが今後ますます重要になります。自然と共生する河川利用の規範を市民の心に形づくることが重要であり、それは魅力あるまちづくりにも直結すると考えています。

平成22年3月

三次市三川合流部周辺河川環境整備計画
検討協議会 会長
広島大学大学院 教授 河原 能久